

# ENGLISH for ACADEMIC and BUSINESS PURPOSES

making your 留学 more meaningful

海外留学に必要な英語運用能力を育成するコース事業  
- 質の保証にむけて -

## 報告書

京都大学 国際交流推進機構

IELTS  
TOEFL  
BULATS  
CANADA  
AMERICA  
ENGLAND  
AUSTRALIA

# INDEX

---

|                                                               |         |
|---------------------------------------------------------------|---------|
| 1. 事業報告に寄せて「君の新しい世界を見つけよう」                                    | 1       |
| 2. OVERVIEW                                                   | 2       |
| 3. SCHEDULE                                                   | 3       |
| 4. 学生の声                                                       |         |
| CANADA                                                        | 4 - 5   |
| AUSTRALIA                                                     | 6       |
| ENGLAND                                                       | 7       |
| AMERICA                                                       | 8       |
| BURATS                                                        | 9       |
| IELTS                                                         | 10 - 11 |
| TOEFL                                                         | 12 - 13 |
| 6. オンライン講座「Study Abroad and Preparation for Academic Writing」 | 14      |
| 7. プログラムの案内                                                   | 15      |
| 8. 謝辞                                                         | 16      |

# 「君の新しい世界を見つけよう」

昨年ぐらいから「グローバル人材育成」が多くの場で語られるようになった。「グローバル人材」とは何かが盛んに議論され、文部科学省もグローバル 30 プラスなどのプログラムで、日本の若者の海外派遣を支援する試みをより強く打ち出すようになった。これはとても歓迎すべきことである。

京都大学はこれまでも多くの国際的な人材を送り出してきた。多くの卒業生が国際的な活躍をしている。しかしこれまでのレベルで満足してはいけない。なぜなら、今の大学生が卒業し働くであろう、これからの 50 年間は過去の 50 年とはまったく次元の違う国際化が進むように思われるからだ。それには幾つかの要因がある。ICT（情報通信技術）の進歩や BRICS の急激な成長、日本の少子高齢化など、枚挙にいとまがない。すべての学生が国際化に十分な準備をしてもらいたい。

「学生諸君、君たちの未来は君たちが決める。でも勉強はしておこう。そのための手伝いを京都大学はできる。ちょっと望めば君の新しい世界はすぐそこにある。今回の様々な講演やテスト実習が君たちの役に立つことを望みたい。」

最後に、ご協力いただいた講師の方々、および本事業を中心になって推進された西川美香子先生に心から御礼を申し上げます。

平成 24 年 12 月 10 日  
国際交流推進機構長  
森 純一



# OVERVIEW

## 海外留学に必要な英語運用能力を育成するコース事業 Study-Abroad & English for Academic & Business Purposes -Making Your 留学 More Meaningful- 本事業の取り組みについて

国際交流推進機構 特定助教 西川美香子

国際交流推進機構は、国際化推進強化の観点から様々な海外留学派遣プログラム支援を行っているが、交換留学や長期留学を希望する学生には更なる準備支援が必要であると考えている。しかし、現実には学生が講義以外に英語に触れる機会や情報に乏しいのが実情である。そこで、新しい試みとして「海外留学に必要な英語運用能力を育成するコース事業」を起案したところ、平成24年度の特別協力経費に採択された。

このコース事業の目的は、①学生が自分のレベルにあった目標設定と学習成果の確認し、正規留学に必要とされるのに必要十分な英語運用能力を強化すること。これらは、超短期留学などに参加した学生の英語運用能力維持・向上にも間違いなく役立つ。同時に②正規留学を希望する学生にとって必要な情報を提供する場としても本プログラムを活用し、留学準備が円滑に進められるようにすることである。本事業の取組みは主に次の3つから構成され、計13回の講義を提供した（火曜日6限・午後6:15-7:45）

I：英語圏各国の公的および準公的機関による留学情報の提供

（イギリス・カナダ・アメリカ・オーストラリア）

II：英語能力試験対策教材を使った対策講座

（IELTS、TOEFL 対策、ビジネス英語 BULATS 対策）および各種テストの学内実施

III: 自律学習用・オンライン・アカデミック ライティング添削講座（11 回分）の提供

本事業は当初、京都大学に在籍する希望者（院生・学部生を問わず）を募り、参加人数の上限を80名までとする予定であった。ところが、思った以上の学生（250名以上）の方が関心を寄せ、教材や検定テストが受けられずとも聴講を希望する学生で講義室は毎週満席となった。

本学の学生の英語能力の向上を体系的に図り、世界で活躍できるグローバル人材育成を将来に亘り展開することは、本学の教育・研究全般において、その意義と投資効果は測りしれないと考えている。本報告書では、これらの13回の講義内容と学習成果について、学生の感想をまとめ紹介する。





# SCHEDULE

平成 24 年全学経費・採択事業

「国際化推進支援」特別協力経費・国際交流推進機構

事業名：海外留学に必要な英語運用能力を育成するコース事業  
-質の保証に向けて-



## English for Academic & Business Purposes-Making your 留学 More Meaningful-

|                     | 火曜日 6 限 (90 分)<br>(講演者紹介 10 分+講義 60 分+提供教材説明 20 分)                                                       | 提供教材 (無償その 1)                                                                                                                                     | 提供教材 (無償その 2)                                    |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 第 1 回<br>10/2 (火)   | <b>オリエンテーション</b> (コース概要)<br>-ご挨拶・本プログラムの目的など<br>国際交流推進機構 機構長 森 純一<br>-添削講座の活用方法など<br>国際交流推進機構 特定助教 西川美香子 | 英語添削講座について<br>Study-Abroad & Preparation<br>for Academic Writing<br>使用方法と進め方                                                                      |                                                  |
| 第 2 回<br>10/9 (火)   | <b>イギリス留学情報の提供</b><br>ブリティッシュ・カウンシル<br>教育推進・連携プロジェクトマネージャー<br>トム・メイーズ 氏                                  | 第一回・英語添削講座<br>Study-Abroad & Preparation<br>for Academic Writing<br>Unit 1: Main Features of<br>Academic Writing<br>Unit 2: Shaping<br>Paragraphs |                                                  |
| 第 3 回<br>10/16 (火)  | <b>社会に出て役立つ「ビジネス英語」</b><br>BULATS テスト説明<br>日本英語検定協会 講師<br>平井 通宏 氏                                        | 第二回・英語添削講座<br>Study-Abroad & Preparation<br>for Academic Writing<br>Unit 3: Organizational<br>Structure of Essays                                 |                                                  |
| 第 4 回<br>10/20 (土)  | 10/20 (土)<br><b>学内 BULATS テスト</b>                                                                        |                                                                                                                                                   | 10/20 (土)<br>学内 BULATS テスト<br>実施                 |
| 第 5 回<br>10/23 (火)  | <b>カナダ留学情報の提供</b><br>カナダ大使館 広報・教育プロモーション担当官<br>アラン・シュローダー 氏                                              | 第三回・英語添削講座<br>Study-Abroad & Preparation<br>for Academic Writing<br>Unit 4: Paraphrasing                                                          |                                                  |
| 第 6 回<br>10/30 (火)  | <b>IELTS テスト 攻略法</b><br>リスニング対策講座<br>日本英語検定協会による 講師派遣<br>マーク・ヘイマン・ジョイス 氏                                 | 第四回・英語添削講座<br>Study-Abroad & Preparation<br>for Academic Writing<br>Unit 5: The Descriptive<br>Essay                                              |                                                  |
| 第 7 回<br>11/6 (火)   | <b>オーストラリア留学情報の提供</b><br>オーストラリア総領事館 商務官・教育担当<br>松本 文仁 氏                                                 | 第五回・英語添削講座<br>Study-Abroad & Preparation<br>for Academic Writing<br>Unit 6: The Process<br>Essay                                                  |                                                  |
| 第 8 回<br>11/13 (火)  | <b>IELTS テスト 攻略法</b><br>スピーキング対策講座<br>日本英語検定協会による 講師派遣<br>グレン・エドモンズ 氏                                    | 第六回・英語添削講座<br>Study-Abroad & Preparation<br>for Academic Writing<br>Unit 7: The Polemic<br>(Argumentative) Essay                                  |                                                  |
| 第 9 回<br>11/20 (火)  | <b>アメリカ留学情報の提供</b><br>駐大阪・神戸米国総領事館 関西アメリカンセンター<br>室長 西部 由美氏                                              | 第七回・英語添削講座<br>Study-Abroad & Preparation<br>for Academic Writing<br>Unit 8: The Comparison<br>Essay                                               |                                                  |
| 第 10 回<br>11/27 (火) | <b>TOEFL テスト 攻略法</b><br>テスト概要(ITP, iBT)<br>TOEFL 教材の説明、ノートテータキング対策<br>人間・環境学研究科 助教<br>金丸 敏幸              | 第八回・英語添削講座<br>Study-Abroad & Preparation<br>for Academic Writing<br>Unit 9: The Cause and<br>Effect Essay                                         | TOEFL iBT<br>Writing 自動添削ソフト<br>Criterion (2 回分) |
| 第 11 回<br>12/4 (火)  | <b>TOEFL テスト攻略法</b><br>リスニング対策 (会話タイプ)<br>ライティング対策 (Criterion 結果の見方)<br>高等教育研究開発推進センター 教授<br>田地野 彰       | 第九回・英語添削講座<br>Study-Abroad & Preparation<br>for Academic Writing<br>Unit 10: The<br>Problem-Solution Essay                                        |                                                  |
| 第 12 回<br>12/11 (火) | <b>TOEFL テスト攻略法</b><br>スピーキング対策<br>立命館アジア太平洋大学<br>五十峰 聖 氏                                                | 第十回・英語添削講座<br>Study-Abroad & Preparation<br>for Academic Writing<br>Unit 11: IELTS 類似問題                                                           | TOEFL iBT<br>Sample Practice Test                |
| 第 13 回<br>12/22 (土) | 12/22 (土)<br><b>学内 TOEFL ITP</b>                                                                         |                                                                                                                                                   | 12/22 (土)<br>学内 TOEFL ITP 実施                     |

## 農学部 3 回生 内海麻衣

今回、カナダ留学に関してアラン・シュローダーさんの特別講演をお聞きして、私が最も興味を持ったのは、カナダの教育環境と留学費用についてです。カナダは多文化社会であり留学生も多いこと、治安がよく比較的安全なことなどから、国連の住みやすい国ランキングで上位に入っています。また、カナダは OECD 加盟国の中で対 GDP 比教育支出が 7 番目に大きいことから分かるように教育に力を入れているため、カナダの大学は世界でも最高レベルの水準を持っていて、最新鋭の設備と研究設備を備えています。カナダを訪れた留学生は、安心して、質の高い教育を受けることができるのです。加えて、大学内は大規模なスポーツ施設やコンサートホール、アートギャラリーなどがあったり、学生ビザで留学中の学生でも現地でアルバイトすることが認められていたりするので、学業以外の面でも楽しみながら学べる機会は多く与えられます。

さらに、留学を具体的に考え始めた時に頭を悩ませることの一つとして留学費用が挙げられますが、カナダでは他の国（オーストラリア、アメリカ、イギリスなど）と比較して少し教育費用が安く済むそうです。教育にかかる以外の費用においても、家賃は少し高いけれども日常生活費はやや安めだそうです。

以上の二つの点だけでも、カナダが留学先としていかにすばらしいかということが分かりました。教育環境が大変充実しており、また留学を通じて学習だけでなく課外活動や社会勉強までできるということはカナダ留学の大きなメリットではないでしょうか。今後留学する機会があればカナダを選びたいと思います。アラン・シュローダーさんの講演はとても参考になりました。ありがとうございました。

## 工学部 3 回生 石井大貴

今回、カナダへの留学情報を提供していただいて、興味を持てたことが主に 2 つありました。1 つ目は何より町のきれいさ、自然の壮大さです。町の紹介の時に使われていた写真がすごくきれいで、興味を惹かれました。留学する場合、勉強できる環境はもちろん、周囲の環境や生活、治安についてなどにも配慮すると思いますが、カナダは安全そうで、また休日には観光できそうな場所もたくさんありそうということが分かったので、ぜひ行ってみたいです。また、カナダのバンクーバーが世界一住みやすい都市に認定されているのも興味が惹かれました。旅行としてもぜひ一度行ってみたいし、また留学してバンクーバーで生活することで、どれくらい住みやすいのかを実感したいなと思いました。また、カナダの北部ではオーロラが有名ということで、ぜひ見に行きたいなと思いました。素晴らしい自然環境の中で勉強できるのはすごく良い事だと思いました。

2 つ目に興味を持てたことは、母国語が 2 つあるということでした。カナダでは、英語とフランス語が母国語ということで、それらを同時に体験できるというのはすごいことだと思います。様々な言語を同時に学ぶことができるということで、言語と同時に、文化も多様であり、様々な文化が体験できると思います。文化が理解できてこそ、より効果的に言語を学び、話せる事ができるようになると思うので、いろいろな民族の方々が生活しているカナダで、様々な文化が経験できるというのは、非常にいいことだと思います。

カナダには前々から一度は行ってみたいと思っていましたが、今回の講演でよりいっそうカナダに行ってみたくなりました。ご講演いただき、ありがとうございました。

### 工学部 3 回生 榎本祥英

私はカナダといえばウィンタースポーツや自然、野生動物などといった観光目的で訪問する国という認識でした。しかし、アラン・シュローダー氏のカナダ留学に関する講演を聞いて、カナダという国そのものに対するイメージが変わりました。すなわち、カナダはアメリカなどの国々に匹敵する絶好の留学先であるということです。その理由として、カナダの教育環境と生活環境が主に挙げられます。

まず教育環境としては、カナダには留学生にとって多くの機会が用意されているということです。カナダ自体がフランス語と英語を公用語としている多民族国家であることもあり、多くの留学生たちが語学学習にやってくるとのことでした。そうした多くの留学生に対して、カナダは約 1 万もの学部生あるいは院生向けのプログラムを提供していることに加え、その授業料もオーストラリア・イギリス・アメリカといった主要な留学先の国々よりも安いというのは、留学を考える私たちからするととても魅力的な事実でした。

次に生活環境として、カナダでの生活の様子は他の主要な留学先でのそれと比べても満足できそうなものであるように感じました。紹介された都市が興味深かったのはもちろんのこと、大学に通いながら働くこともできるという点から、自由に大学生活を送ることが素晴らしいものであると思われました。

この講演を通じて、カナダという国は留学生にとって素晴らしい環境を提供していると感じ、カナダを訪れてみたいと強く感じました。また、カナダへの留学には高い英語力が求められるので、日々の英語力向上に励んでいこうと思いました。



上：カナダ大使館 広報・教育プロモーション担当官 アラン・シュローダー 氏

## 法学部 1 回生 八里直生

率直に言う。非常に啓発的であった。これまで受けてきた数々の講演のように僕らを飽きさせず、かつオーストラリアへの興味、オーストラリア留学への興味、ひいてはグローバル化とその中の競争社会を生き抜くメソッドを提示していただいた、そんな講義であった。

第一に印象的だったのはオーストラリアを例にして異文化理解とはいかなるものか、という問いである。この問いに対し、松本氏は McDonalds の BACK 1min. とかかれた看板をアップされ、ここから違いを見つけ、それを面白いと感じられるかどうかだ、とおっしゃった。つかみは完璧であった。そこから広がる今まで知らなかったオーストラリアの様々なジャンルにおけるレベルの高さは私に大なる知的興味を沸かせた。それに続いて第二のテーマであるオーストラリア留学である。学生ビザでバイトができる、バラエティに富んだコース選択、などなど魅力的な点は多々あったが、そのなかでも五人に一人が留学生であるという学校そのもののグローバルさについての話に移ると私の興奮はとどまることを知らなかった。そんな環境に身を置いてみたい！という強い思いが張り裂けんばかりであった。誇張ではなく、真なのである。第三にグローバルに活躍するための準備についてだが、「内向き」なのは学生？それとも企業？という問いかけ、アップルと某電気製品会社の比較、秘書や経理サービスの例。もっとも大事な点である「答えのない問い」について自ら考え続けたことは大変意義深いことのように思う。わたしも5%の違いを常に意識し、ためらうことなく飛び込んでいこう。そう思わせてくれる講演だったように思う。

## 法学部 1 回生 立松稜惟

今回のお話は①オーストラリアを知る、②オーストラリアの留学を知る、③グローバルに活躍するための準備ができる、という3つのテーマに分かれ、どのテーマも興味深いものであった。まず①では、多民族社会、長い経済成長、豊富な天然資源や農産物など、オーストラリアの良い点をたくさん紹介して頂いた。ただ英語を勉強しているだけでなく、ぜひ多文化のオーストラリアへ行って異文化理解を深め、グローバルセンスを磨きたいと感じた。②では、オーストラリアの大学・大学院のレベルの高さやコースの豊富さ、さらにビザの種類についても学んだ。オーストラリアの大学は数は少ないものの世界の大学ランキングの上位に多くランクインしており、大学・政府・産業界の協力体制もしっかりしているということで、質の良い留学が保証されるの

だと思った。最後に③では、企業の海外進出、またそのために「グローバル人材」がいかに必要とされているか、そして反対に若者の海外志向が低迷している現状について教えて頂いた。これらの現状は自分にとってはチャンスと捉えたいし、「グローバル人材」となるためには使える英語力、異文化理解、グローバルリーダーシップを身につけるべきだということを痛感した。そしてそのためにはオーストラリアへの留学が非常に有効だと感じた。自分は春に短期留学プログラムでオーストラリアへ行く機会があるので、今回聞かせて頂いたことを頭に入れて、有意義な留学にしたい。ありがとうございました。



上：オーストラリア総領事館 商務官・教育担当 松本文仁 氏

## 経済学部 4 回生 古賀一基

今回受講させていただいた British Council の講座には、イギリス留学に関する重要な情報が幅広く盛り込まれていました。中でも、ロンドン・その他都市における生活費や、イギリスの大学院のシステムについてのお話は特に興味深く、イギリスでの学生生活をイメージし易くなる内容だったと思います。イギリスの大学・大学院は学費が高いことが有名で、留学を考えている学生は比較的容易にそのことを知ることが出来ます。しかし、留学先での住居・物価などの生活に関する情報は日本国内に居てはなかなかイメージができないものだと思います。今回の講座では、どのような滞在の仕方があるのか、住居費・食費・その他の諸費用がどの程度かかるのか等について、本場のイギリス人講師の方に詳しく説明していただきました。特に住居



左：ブリティッシュ・カウンシル 教育推進・連携プロジェクトマネージャー  
トム・メイズ 氏

の面については、イギリスの中でも非常に長い歴史を持つ Cambridge 大学の寮で生活することが勉学に励む上で多くの刺激を与えてくれたことなど、講師の方自身の経験を元にした興味深いエピソードをお聞きすることができ、生活に関する情報を知るだけではなくイギリス留学の魅力を十分に感じることができました。もちろん、この講座を受けたことで海外での生活を完璧にイメージ・計画できるというわけではありませんが、私のような海外在住経験の無い学生にとっては大変有意義な内容となっていました。また、大学院の入学システムやキャリアパスの説明も大変役に立ちました。もし個人が独力で進学希望先の海外大学・大学院の制度について知ろうとしても、各大学の Web ページを見ただけでは自分がどのコースに進むべきかに自信がもてないことが多くあると思います。その点についても、イギリスの大学院のシステムの違いについて詳しい表を使ったりわかりやすい説明があり、自分が大学院においてどのようにステップアップしていけばよいかを考えることができました。特に Pre-Master Course や Graduate Diploma 等は日本との制度の違いのため存在さえ知らなかったこともあり、大学院で専攻を変えようと考えている私にはとても興味深いものでした。このような生活全般や大学院のシステムに関する情報は、イギリスに限らず他の色々な国に留学を考える際にも必ず重要になってくるもので、そういった視点を設けるという意味でも幅広く学生の助けになる講座だったと感じました。

## 農学部 2 回生 田中千晴

以前、高校のときにイギリスで 2 週間、語学研修のためにホームステイをしたことがあり、それ以来、イギリスは私にとって身近な国です。一度行ってとても気に入って、留学先を考えるにあたっての選択肢のひとつです。トム・メイズ氏の講演の中でイギリスの気候についてのお話のときは、たしかにそうだったなと以前イギリスに行った時のことを懐かしく思い出しました。最も驚いたのは、イギリスの大学の 2 つ以外が国立大学であるということです。イギリスに留学する学生が学ぶ分野にどのようなものがあるか、また、どの分野が人気があるかというお話は、留学したら何を学ぼうかと考えていた私にとって興味深いものでした。分野だけではなく、サッカーなど自分の興味のある文化を基準に大学を選ぶ方法もあることも知り、新鮮でした。これらのお話や、留学中のアルバイト、費用についての情報など、トム・メイズ氏の講演は、私が何となく思い描いている留学に現実味を与えてくれるものでした。



## 工学部1回生 林和希

僕がいかに海外留学に対して無知であったか。自分なりに調べていてもその事実を痛感するくらい、今回のアメリカ留学の手引きは綿密な情報尽くしでした。僕はアメリカの大学院に進学して学位を取得することを目標としていたのですが、その大学院にも学術系大学院と専門職系大学院に大別されることは初耳でした。このような大学・大学院のシステムの詳細な説明に始まり、出願数の目安・条件付き入学・奨学金のタイプ（Merit-based, Need-based, Need-blind）といった留学生の立場としては非常に実用的な情報まで提供してくださり、アメリカ留学への見通しが明るくなりました。プリントとして配布された留学情報サイトのURL まとめは永久保存版として僕の引き出しに大切にしまっておこうと思います。西部さんのおっしゃった「アメリカ留学はサンドウィッチとよく似ている」という言葉はアメリカ留学の本質を巧妙に捉えていると思いました。パンの種類からサラダ・ドレッシング・チーズの種類まで自由に選べるアメリカ式サンドウィッチ同様、アメリカ留学には多種多様な個々のニーズを満たすプランが必ず1つ存在すると僕は確信しました。西部さんがOpen Doors というデータから引用された通り、かつて1位であった日本のアメリカへの留学生派遣数は7位と落ち込んでいます。若者の海外離れとも称される問題の1つとも言えるこの問題はアメリカ留学への知識が乏しいことに起因しているのではないのでしょうか。より多くの大学生がこのような貴重な講演で得た知識を生かしてアメリカ留学への展望を具体化させることを願っています。

下：駐大阪・神戸米国総領事館 関西アメリカンセンター室長 西部由美 氏



## 医学部 五明美香子

今回初めて BULATS という試験を知り、対策講座と試験を受けました。

BULATS には TOEIC や TOEFL のような対策本がないため、対策講座で出題形式や傾向を丁寧に教えてもらったことはとても有意義であったと感じました。また自学用に、BULATS に効果的でかつ試験後も使い続けることのできる教材を多く紹介していただき、今後も活用できる勉強方法のヒントを得られて嬉しく思いました。

実際の試験は、ビジネスの場面を想定されつつ大学で学んだ語学力を生かすことのできるものでした。Reading・Listening 共に難解な専門用語を使うことなくビジネスの場面が再現されていて、いかに情報を読み取ることができるかを試される問題だったように思います。筆記で解答すべき問いもあり、同じくビジネス志向の TOEIC との大きな違いだと感じました。また、Speaking では「必ず盛り込むと指示された内容を正確に伝えられるか」「テーマに沿ったディスカッションができるか」が採点基準となっているため、社会人はもちろん学生にとっても不可欠なスキルの定着が見られる場だと思えます。

BULATS は公開テストがないために日本での認知度はまだまだ低いといえますが、グローバル企業では既に取り入れられて国際社会での英語力の指標になっていること、大阪大や上智大といったいわゆる外向きの大学では既に学内実施が行われていることを伺いました。就職後も生かせる英語力を向上させ続けるためにも、来年度以降も京都大学にて講座と試験を受ける機会を設けてもらいたいと強く感じています。

## 経済学部 1 回生 大庭脩平

今回 BULATS を受験したのですが、最初 BULATS 自体を知らず、どのような目的のテストでどのように活用されるかも知らなかったのですが平井先生の説明で主にビジネスのための英語技能検定試験であり、TOEIC にはないスピーキングセクションを含んだ実践的なもので、日本の有名企業を始めとし多くの企業で団体受験が行われていることを知りました。自分は英検、TOEFL、TOEIC の受験歴があり、英検 TOEIC の受験は数年前のことなのであまり良く覚えていないのですが TOEFL より BULATS の試験時間が短かった為比較的体力的に楽でした。ですがリスニングの時間は TOEFL より長く、なおかつ大問 1 は二回放送されるものの、大問 2 からは一回のみの放送ということで、事前にサンプルテストを受けてみたはものの大問 2 で気が抜けて放送を聞き逃すことがありました。ですが平井先生の解けなかった問題にこだわるなというアドバイスのおかげで切り替えて次の問題を解くことができました。また、スピーキングにおいては英検と同じく個室での対談という形だったので TOEFL の開放空間でのマイクに向かって話す形式よりしゃべりやすかったです。ですが長くしゃべりすぎたりして最後の設問が時間切れになってしまったので時計を確認するなどのことをすれば良かったと後悔しています。また BULATS のリーディングの素材文自体、設問、時間対分量は TOEFL より楽でしたが、特殊な設問形式だったので事前にサンプルテストを受けておかなければ戸惑いがあったかもしれません。また、IELTS を 12 月に受験予定で、BULATS は IELTS に形式が似ているということで IELTS のいい練習になったと思います。ビジネスシーンで BULATS が多く利用されているということなのでまた受験できる機会があれば是非受験したいと思います。

右：日本英語検定協会 講師 平井通宏 氏



## 総合人間学部 2 回生 栢菅朋哉

今回の講義で一番役立つと感じたのは、やはり実際にリスニングテストを体験できたことであると思う。リスニングは個人での学習時にはスピーキングに次いで取り組みにくく、また日本人が苦手とする分野である。それを本当の IELTS と同様の形で体験できたことは良い経験となった。

さらに、リスニングを受けるときの注意点を箇条書きで示してもらえたので、これから IELTS を受けようとしている身にはとてもありがたかった。特に、試験時において、リスニングが始まる前、リスニング中、リスニングが終わった後というように、各段階において細かい注意点を挙げてもらえ、また試験を受けるまでに実力を高めるべきポイントも同時に提示していただくなど、非常にきめの細かいアドバイスをいただけたので、対策の立て易さが増した。

解答用紙の見本が得られたことも非常にプラスになると思う。実際の形式の解答用紙を見る機会はほとんどなく、実際にテストを受ける前に完全な形で確認することが出来たため、本番も戸惑うことなく試験を受けられると思う。

また、解答発表前に数人で答え合わせのディスカッションをさせてもらえたことも、なかなかおもしろい経験になり、スピーキング対策のみならず、英語でのディスカッションの練習になり良かったと思う。

加えて、IELTS とは直接関係があるわけではないが、たとえ生徒が回答して間違えても「気にしないでよい」という旨の激励をいただけたことで、積極的な発言が可能となったことは非常にありがたかった。試験の際もこのような心意気で臨めれば良いと思う。

総じて、IELTS をより親しみやすく感じさせていただけたので、今後のモチベーションの向上に役立ったと言えると思う。

## 工学部 3 回生 柿原美夏

今回の IELTS のリスニング対策特別講義で特に勉強になったことは、細かい情報まで逃さずに聞く、ということです。私は今まで、リスニングの勉強をする時、概要を理解することや重要な情報、強調された内容などに注意して聞いていました。しかし、それだけではなく、詳細までよく注意を払って聞く、という練習も同じように重要だと感じました。

IELTS の試験では、選択肢から選んで答える問題以外にも、自分で単語やフレーズを書いて答える問題が出題されます。人名や会社名、価格などは、実社会でも正確性が求められます。また、スペリングも正しく書かなければなりません。もちろん、リスニング問題の全体像を把握することも必要ですが、そのような情報を漏らさずに正確に聞き取る、という力もより必要だと感じました。

また、問題によっては、聞いた単語をそのまま答えるのではなく、同じ意味の別のフレーズを理解して答えなければなりません。そのような問題に対応出来るようになるには、ボキャブラリーを豊富にしておかなければならないと感じました。それと同時に、IELTS 対策をすることは、英語の表現の幅を広げることにつながると感じました。

特別講義は限られた時間ではありましたが、ジョイス先生は、今後どのようなことを意識してリスニングの勉強をしていけばよいのか、気づかせて下さいました。これから、内容の細部まで集中して聞き取るように練習していきたいと思っています。今回は、このような講義を受ける機会を与えて頂き、ありがとうございました。



## 工学部 4 回生 浅野周作

講師のエドモンズ氏は非常にユーモアにあふれた人で、生徒を楽しませ笑わせつつも、しっかりと押さえるところは押さえて、IELTS 試験の情報と対策法や、受験するに当たっての心構えを教えてくれた。

講義では IELTS のテストスコアの概要を紹介されたのち、Part1,Part2,Part3 のそれぞれのセクションについて、実際のテストの様子を撮影したビデオをみながら演習を行った。演習とは、2 人一組で試験官役と受験者役を交代しながらのスピーキングテストのシミュレーションである。試験官役をすることは、受験者としてしゃべること以上に得るものが大きかった。どういうところでスピーキング能力の評価が決まるのかよく理解できる上に、それを自分がしゃべる際にフィードバックできた。例えば、いくら文法に気をつけてしゃべってきても、質問と答えがかみ合っていない場合や、内容は簡潔にまとまっているが、時間を余らせてしまった場合は、試験官としては非常にづらいし、高い評価は出せないだろうと思う。

「～テスト攻略法」という内容は往々にして退屈になりがちであるが、今回の授業は IELTS を受験する予定のない学生にとっても非常に意味深いものだったと思う。実際のところ今年 IELTS を受験する人は、生徒のうち半分くらいだろうにも関わらず、教室の中の活気はすごかった。



日本英語検定協会による 講師派遣  
マーク・ハイマン・ジョイス 氏（左）  
グレン・エドモンズ 氏（下）



## 法学部 1 回生 横光明子

右：人間・環境学研究科 助教 金丸敏幸



主にアメリカ留学が必要とは知らなかった。

日常生活で必要な英語による説明力を身につけるためには読む・聞く・話す・書く、の四技能すべてが欠かせないという話は参考になった。これまでは日本語もすらすら話せないし説明も難しいのに英語でそれをうまくやるのは不可能だろう、となかば諦めていたが、英語での説明力がつければ日本語での説明も当然うまくなるという逆の発想を聞いてなるほど、と思いポジティブな気持ちが出てきた。確かに相手の理解度に合わせて説明に必要な要素を考えたり論理性を追求したりする点はどんな言葉でも同じだと改めて気づかされた。

テストによって問題数に差があるとは驚いた。

ハキハキ話さないとそれだけで減点になるというのは実用的だと感じた。人前でもないのにテストだからと声が小さくなるようでは

コミュニケーションには支障がある。自信を持ち、堂々としていることは、発言に説得力を持たせる一つの重要な要素だと思う。

ライティングについてもパソコンならではの長所と短所があるというのは言われて改めて意識するようになった。挿入が容易なのは文の組み立てが遅い私にとってはかなり喜ばしいところである。一方短所であるタイプミスについてはあまり実感がなかったのだが、その日の夜帰宅してパソコンに日曜に急仕上げた割と出来が良いと思っていたエッセイの添削を見て真っ赤だったその原因は正にタイプミスや、手書きなら絶対しないであろうつづりの間違いであった。急いでいたこともあったろうがそれにしてもひどかった。具体的には their→theit, thei や different→deferent などがあり、また直前に positively を使っていたのがどこかに残っていたのであろう、possibly→possively という間違いもあった。

## 経済学部 4 回生 武田航平

TOEFL では、Reading 以外のセクションですべてリスニングが必要になってくる。過去に受験した際に、とりわけ Writing セクションの Integrated task あるいは Speaking セクションで聞き取った内容をもとに解答する問題は非常に難しく感じ、実際に点数も低く出ていた。そこで最も重要なのは、会話あるいは講義の中のキーワードを聞き漏らさず、効果的なノートテイキングをすることだと言える。特に、一度聞き取れなかったときに、そこでノートテイキングが止まってしまうたり、また時間をロスしないようにするノートテイキングのいくつかの方法を知ることができたのは良かった。とくに簡潔なノートにするための記号の使い方などは非常に参考になったし、ウェブ上の学習サイト等も提示されたので、実践してみたいと感じた。Writing セクションに関する講義では、もう少し Integrated Task の内容を扱ってほしかったように思う。Independent Task の問題は、添削課題等である程度練習できるが、Listening と Reading の関連性を効果的に書くことは意外に難しく点数も出にくいと感じているので、この部分に関しての講義もまた別にあってもよいのでは、と感じた。ただ、Writing の際に” Sign Posting” と” Planning” に関しては 2 つのエッセイを比べることでその読み手に対する効果という面で非常に重要だと再確認でき、Criterion の修正、書き直しに役立てたい。



上：田地野研 細越さま / 川西さま

## 工学部 4 回生 田邊 統

今回、立命館アジア太平洋大学非常勤講師でおられる五十峰先生より TOEFL iBT の Speaking セクションについて講義をいただきました。主に講義の内容は Speaking セッションの概要、採点方式、採点基準に関するものでした。先生は非常に闊達で親しみやすい方で、その軽妙な語り口に講義に参加した学生も、六時限目という遅い時間にも関わらず楽しみながら講義を聞くことができました。TOEFL iBT の中でも、勉強しにくいセクションである Speaking について、特に採点基準について学べたことは有意義でした。採点基準を意識することはもちろん効率的にスコアを伸ばす上で役立つだけでなく、普段英語を使う中でもこのような点を意識することで、よりスムーズなコミュニケーションに寄与するものと思います。また、講義の終盤では先生らしく「こんな Speaking はイヤだ!」と題して、多くの受験者が陥りやすい失敗について 10 項目にわたり講義をいただきました。さらに講義の中で例題を用いて実際の Speaking セクションにトライさせていたのも講義を非常に効果的なものにしていただけたと感じました。実際にテストに則って話してみると、先生のおっしゃられていたダメなポイントに陥ってしまっていることに気づき、改めてテストの難しさを感じることができました。

今回の講義を通して学んだことを活かし、スコアアップ、英語力アップに努めてまいります。



上：立命館アジア太平洋大学 五十峰聖 氏

# 「Study-Abroad & Preparation for Academic Writing」

本教材は、海外留学を希望する学生、およびアカデミックライティング技能をより向上させたいと思っている大学生・大学院生を主対象として、IELTS や TOEFL® テストの内容を参考にしながら開発されました。海外の大学における成果評価は、一般に、学生のレポートやエッセイを通して行われます。また研究成果の多くは学術論文という形で発表されます。つまり、アカデミックライティングは大学生活においてもっとも重要な言語技能の一つであると言えます。しかしながら、ライティングに悩む英語学習者は少なくありません。

この教材は自律学習型教材で、アカデミックライティングの基礎から応用までを体系的に学習できるように設計されています。本教材が、皆様の大学生活をより充実させるための一助になれば幸いです。

監修者 田地野 彰

京都大学高等教育研究開発推進センター教授



京都大学の教員らが監修（※1 下記参照）するライティング添削講座「Study-Abroad & Preparation for Academic Writing」は、アカデミックライティング能力（特に、論理構成や文章の展開能力）を強化するために、IELTS の類似問題を用いたネイティブの添削を 10 回受けられる自律学習支援教材で、日本英語検定協会の協力を得て開発したものをパイロット的に導入した。3 カ月という短い期間で 10 種類もの（※2 下記参照）英語小エッセイを提出し、添削指導を受けるような機会は、本学の学生も初めての経験であっただろう。

このオンライン講座には計 96 名の学生が登録し、全ユニットを制覇した学生は合計 16 名となった。中には最高得点に近い実力を発揮した学生もいた。「Writing 力は一人で勉強しにくいので今回の e-Learning 教材はとても良かった」「継続的に Writing を続けたことで Essay を書く事への抵抗が少なくなった」「点数で評価されるので分かりやすかった」「Academic Writing の基本的なことが分かりやすく理解できました」など様々な感想が寄せられた。

※2 オンライン教材 各ユニットの構成

| Unit | 学習項目                           | 概要                       |
|------|--------------------------------|--------------------------|
| 1    | Overview                       | 本講座で学ぶこと/アカデミックライティングの特徴 |
| 2    | The Paragraph                  | 段落の書き方                   |
| 3    | Organizational Structure       | エッセイの構成                  |
| 4    | Methods to Avoid Plagiarism    | 盗作を避けるために 言い換え、引用、出典     |
| 5    | The Descriptive Essay          | グラフや表を分析し説明する            |
| 6    | The Process Essay              | 順序・過程）やサイクルを説明する         |
| 7    | The Argumentative Essay        | 自分の意見の正当性を証明する           |
| 8    | The Comparative Essay          | 2つ以上の事項を比較する             |
| 9    | The Cause and Effect Essay     | 物事の原因と結果について述べる          |
| 10   | The Problem and Solution Essay | 問題とその解決策について述べる          |
| 11   | Review                         | 講座のまとめ                   |

Unit 1-4  
Fundamental Features  
of  
Academic Essays

Unit 5-6  
Common Types  
of  
Short Academic Essays

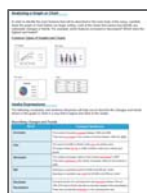
IELTS TASK 1 WRITING

Unit 7-10  
Common Types  
of  
Short Academic Essays

IELTS TASK 2 WRITING



分かりやすい解説



使えるフレーズで  
語彙力アップ



演習問題でエッセイの  
構成をしっかりと押さえる



実際にエッセイを書く  
ワン・クリックで提出



ネイティブのフィードバック  
で客観的に実力を把握

※1 「Study-Abroad & Preparation for Academic English」公益財団法人 日本英語検定協会  
【総合監修】 田地野 彰【アドバイザー】 西川美香子、デビッド・ダルスキー、ナンシー・リー  
【執筆】 マーク・ヘイマン・ジョイス、グレン・エドモンズ【校正】 ナディア・マケックニー  
本教材開発・運営に携わってくださった全ての方に御礼申し上げます。

# プログラムの案内

## 後期 受講生募集

第一回オリエンテーション

10月2日(火曜日) 6限

国際交流センター KUINEP 教室

### *English for Academic & Business Purposes* -Making your 留学 More Meaningful-

海外留学に必要な英語運用能力を育成するコース事業  
- 質の保証に向けて -

#### 1. 目的

留学準備が円滑に進められるように、学生にとって必要な情報を提供する。  
正規の授業以外にも英語に触れる機会を増やし、海外留学に必要とされるのに必要かつ十分な英語運用能力を養成する。

#### 2. 対象者

主に海外留学を希望する学生および超短期留学などに参加した学生などで、英語運用能力維持・向上を目指す京都大学に在籍する学生 80 名を対象とする。  
※留学の予定の無い者も対象者に含まれる。

#### 3. 実施時期

平成 24 年度後期 火曜日 (6 限目) 国際交流センター内 KUINEP 講義室にて実施 ※単位認定なし ※教材費・各種英語検定料は無償

#### 4. 事業内容

I: 英語圏各国の公的および準公的機関による留学情報の提供

II: 英語運用能力試験各種・試験対策講座の提供 (IELTS、TOEFL 対策など) ※教材費は無償で提供

III: 全 10 回の英語エッセイ添削講座 (自習教材) の提供と指導 教材名: "Study-Abroad & Academic Preparation for Writing"

※10 回分の添削教材を無償提供

#### 5. 受講申し込み

第一回のオリエンテーション時に配布する申し込み用紙に必要事項を記入の上、提出 (先着 80 名まで)

締切日: 平成 24 年 10 月 4 日 (木) 正午まで

提出先: 研究国際部留学生課

#### 6. 本プログラムに対するお問い合わせ先

国際交流推進機構 特定助教 西川 美香子

【電話番号】 075-708-6701 【E-mail】 nishikawa.mikako.7w@kyoto-u.ac.jp

研究国際部留学生課 (担当) 濱田

【電話番号】 075-753-2489 【E-mail】 edu.support@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp





# 謝辞

本事業が盛況のうち無事終了し、この報告書を出版することができましたのは、本事業の企画・運営・実施に関わってくださった多くの関係者の皆様さまのお陰です。英語圏各国の機関から、ご多様中に特別講師として日本各地からお越しいただきましたことをはじめ、英語運用能力試験対策の講師には、学内外からすばらしい先生方に講義を提供をしていただきました。

本事業では、学内テストを実施するにあたり、公益財団法人・日本英語検定協会および国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部の皆様にもご支援いただきました。本学においては、国際交流推進機構、高等教育研究開発推進機構、高等教育研究開発推進センター、大学院人間・環境学研究科の諸先生方、院生の皆さま、そして研究国際本部留学生課の職員の皆様にも大変お世話になりました。

最後に、夜遅い講義時間に雨天であろうとも足を運んでくださった参加学生の皆さん、報告書の作成に協力をしてくださった学生の皆様も含め、本事業コースに関わってくださった大勢の皆様さまに、心より感謝の気持ちと御礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。

国際交流推進機構  
特定助教 西川美香子

ブリテイッシュ・カウンシル  
教育推進・連携プロジェクトマネージャー トム・メイズ 氏  
試験部・部長 安田 智恵 氏  
カナダ大使館  
広報・教育プロモーション担当官 アラン・シュローダー 氏  
オーストラリア総領事館  
商務官・教育担当 松本 文仁 氏  
駐大阪・神戸米国総領事館 関西アメリカンセンター  
室長 西部 由美 氏  
神奈川大学理学部  
特任教授 平井 通宏 氏  
公益財団法人・日本英語検定協会  
派遣講師 マーク・ヘイマン・ジョイス 氏  
派遣講師 グレン・エドモンズ 氏  
立命館アジア太平洋大学  
非常勤講師 五十峰 聖 氏  
公益財団法人・日本英語検定協会  
理事 奥城 泰 氏、大阪オフィス 森岡 亜紀 氏、他  
国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部  
西日本オフィス所長代行 星川 郎 氏  
国際交流推進機構  
機構長 森 純一  
高等教育研究開発推進センター  
教授 田地野 彰  
准教授 デビッド・ダルスキー  
高等教育研究開発推進機構  
准教授 高橋 幸  
特定外国語担当講師 ナンシー・リー  
大学院人間・環境学研究科  
助手 金丸 敏幸  
博士課程 細越 響子  
博士課程 川西 慧  
修士課程 小泉 珠代  
研究国際部 留学生課教育支援掛  
掛員 濱田 千亜貴  
デザイン・制作  
総合人間学部 糟野 新一





IELTS  
TOEFL  
BULATS  
CANADA  
AMERICA  
ENGLAND  
AUSTRALIA